〝アフリカの世紀のため〟日本とケニアの架け橋に

ケニア・ナイロビ大学 文学学科長／弁護士
オダリ・マスミ・ハシモトさん
創価大学文学部卒業

Odari, Masumi Hashimoto

おだり・ますみ・はしもと／一九六四年、東京生まれ。二歳から一〇歳まで米国カリフォルニアで過ごし帰国。一九八六年、創価大学文学部を卒業し、ケニアのナイロビ大学大学院に留学。一九八九年に修了、九〇年から同大学に勤務し、現在は文学学科長。その傍ら法学を学んで、ケニアで日本人初の弁護士となる。

開学以来、グローバル人材の育成に力を入れてきた創価大学。これまで世界四八カ国・地域の一六二大学と学術交流協定を結び、昨年度は約九百名の学生が海外留学を経験しています。文部科学省の「スーパーグローバル大学創成支援」に採択され、二〇二三年には、海外留学経験者を一二六〇名、外国人留学生を全学の一五パーセントにし、「平和・世界市民教育研究科（仮）」新設などを目標にしています。

映画『風に立つライオン』は、ケニアの雄大な自然をバックに、戦闘で傷ついた少年兵たちの救護に奔走する日本人医師を描いた物語である。そのロケ地の一つとなったのがナイロビ大学だ。同大学文学科の学科長を務めるオダリさんは制作サイドからの協力依頼を受け、大学側の窓口として、学生の出演など撮影が順調に進むよう尽力した。

「朝日に煌めくインド洋、雪を頂くキリマンジャロ、ビクトリア湖に沈む夕日――ケニアの自然には本当に感動します。食べ物もおいしいし、人々のおおらかさも大好きです。もっと日本人にも来て欲しいです」とオダリさん。

東アフリカに位置するケニアは、野生動物の宝庫として有名だが、首都ナイロビは高層ビルが建ち並ぶ近代都市である。

オダリさんは、創価大学に在学中、パン・アフリカン友好会に所属、アフリカ諸国の現状を聞くために、大使館を訪問するなどした。

「顧問の北政巳教授には、大変お世話になりました。また、卒論でゼミの先生に勧められたのが、ケニアの代表的な作家、グギ・ワ・ジオンゴの『一粒の麦』でした。これがケニアとの出会いです」

夏季研修に参加した創価大学の学生たちが現地の子どもたちと交流。ナイロビ大学の学生たちとオダリさん（右端）も同行。

ジオンゴの描く世界をもっと知りたいと、四年生の時にスワヒリ語の研修でナイロビ大学に三カ月間留学し、翌年、同大学院に進学した。

その後、現地の男性と結婚し、三人の子どもにも恵まれたが、夫が病気で急死。この先、法律を知らないと子育てにも支障があるのではないかと、夜間部で学び、ケニアで日本人初の弁護士となった。現在、大学で文学を教える傍ら、法律事務所に所属し活躍、三人の子どもも立派に成人した。

「学生たちと話していると楽しいですよ。ケニアという国のために自分は何ができるか、そんな相談もよく受けます。課題はたくさんありますが、彼らを見ていると、アフリカは『希望の大地』だと心から思います」

今、オダリさんの胸には強く響く言葉がある。創価大学開学の際に創立者が学生に贈った「英知を磨くは何のため君よ　それを忘るるな」との指針である。二歳から一〇歳までアメリカで育ち、日本語より英語のほうが得意だったオダリさんには、将来、海外で活躍したいという夢があった。その方向を決めたのがこの言葉との出会いだった。

「若い人たちには、ぜひアフリカなど海外に出て、自分の目で見て何ができるか考え、自らの将来を見つけてほしいと思います」

オダリさんは、今後も〝アフリカの世紀のため〟に日本とケニアの架け橋となって、青年たちに夢や希望を与えるような仕事をしていくに違いない。

SOKA University
SOKA Women's College
〒192-8577　東京都八王子市丹木町1-236
Tel.042-691-2215　http://www.soka.ac.jp

Soka Report ｜創立者の軌跡｜ 平和・文化・教育の世紀へ 42

1992年2月、創価大学の創立者・池田大作先生は、ニューデリーの故ラジブ・ガンジー元首相の私邸にソニア夫人を訪ね、その9カ月前、凶弾に倒れた元首相の遺徳を偲びつつ懇談した（写真）。イタリア出身の夫人はケンブリッジ大学在学中に元首相と出会い、文化や生活習慣の違いを乗り越え、政界入りした夫を支えた。創立者は「一番、悲しかった人が、一番、晴れやかに輝く人です。母は太陽です。太陽は輝いてこそ太陽です」と真心から励ましを送った。